

令和6年度 第1回 尾道市公立大学法人評価委員会 議事要旨

日 時：令和6年7月12日（金）10時00分～11時30分

場 所：尾道市立大学E棟1階120会議室

出席者：尾道市公立大学法人評価委員会 萩原委員長、瀬戸委員、豊田委員、藤井委員

その他の出席者

事務局（尾道市総務課） 岡総務課長、三木総務課長補佐兼庶務係長、石井主任

オブザーバー 公立大学法人尾道市立大学 荒井理事長兼学長、桜田理事兼副学長、
寺山理事兼事務局長、有吉経済情報学部長
灰谷日本文学科長、
福田企画広報室長、濱岡学務課長、
若松企画広報室長補佐兼企画広報係長

報告事項：1 令和5年度第5回尾道市公立大学法人評価委員会 書面審議概要について

- 議 題：1 令和5事業年度に係る業務実績評価について
2 第二期中期目標・中期計画に係る業務実績評価について
3 その他

【報告事項】

- 1 令和5年度第5回尾道市公立大学法人評価委員会 書面審議概要について
令和5年度第5回尾道市公立大学法人評価委員会 書面審議概要について事務局から説明を行った結果、意見はなく、速やかに公開することとした。

【議 題】

- 1 令和5事業年度に係る業務実績評価について
(1) 令和5事業年度に係る業務実績に関する報告書について、法人から説明を行った後、令和5事業年度業務の実績に関する評価結果(素案)について事務局から説明を行った。その後、委員から中期計画の項目数が、令和4年度合計から1項目減っている理由について質問があり、次回評価委員会までに整理し、回答することとした。
委員が評点と特記事項を作成し、次の評価委員会で協議することとした。
(2) 第二期中期目標・中期計画に係る業務の実績に関する報告書について、法人から説明

を行った後、第二期中期目標・中期計画に係る業務の実績に関する評価結果（素案）について事務局から説明を行った。

その後、各委員から次のような意見があった。

（委員） P68 第 12 教育研究環境等整備事業について、過去 5 年間の剰余金の額が記載されているが、経理上どのように整理しているか。

（法人） 剰余金の取扱いについては精査して、改めて回答する。

（委員） 研究の質の向上について、科研費の申請率は 31～53% でほぼ横ばいの状況で推移しているため、情報収集及び添削サービスの充実を図るとあるが、それだけで引き上げることができるのか。もう一段踏み込んだものが必要と考えるが、新たな取組み、検討状況を教えてほしい。

（法人） 教育研究推進委員会で検討しているところだが、申請によって追加的な研究費の配分配布や、各学科で採択された教員の申請書を回覧し情報を共有している。科研費に限らず外部資金獲得について情報提供を行い、申請を引き続き促していくよう考えている。

（委員） 関連したことだが、中期計画の研究の活性化で査読付き専門誌や学会誌への論文投稿等の促進とあるが、客観的な評価を受ける機会を得るため、投稿などの程度しているか、大学全体として実績、自己評価をどのように捉えているか。

（法人） ジャーナルの掲載について、毎年度取りまとめができていない。大学で全体の取りまとめは行っていないため、今後対応していきたいと思う。

（委員） 学生生活の支援に関して、コロナ禍で制限があるなか、食の取組みを行っていることは評価できる。一方で、就職ガイダンスの参加者が著しく減少したことが問題であり、取組みが必要である。開催方法等の検討が必要だが、現状として改善していることは何かあるか。学生を取り巻く状況は、目まぐるしく変化する中で従来通りのやり方ではいけない。

（法人） 学生の参加者が減っていることは、全体的な傾向で大学としても危惧している。学生は、タイムパフォーマンスを重視し、関心のない業界には参加しない傾向もある。やり方や開催時期を検討し、参加者を増やしていきたいと考えている。

（委員） 入社後の早期退職に繋がるケースも懸念されるので、何年かおきには、卒業生の離職率や人事担当者の評価等を調査し、データを蓄積するなど、卒業

生の活躍の把握に努めてほしい。

(法人) 卒業生の活躍は、大学としても注視しているが、卒業生のフォローアップまではできていない。企業説明会で卒業生が説明に来ることもあり、活躍を知ることできているが、卒業後のデータ蓄積に取り組みたい。

(委員) データの意識的な蓄積が、今後役立つと思われる。

(委員) 業界とのランチタイム業界研究会は、どういったことをしているか。

(法人) 尾道市内企業を招き、大学食堂で昼食をとりながらざっくばらんに情報交換をしている。回を**重ねる増す**ごとに参加者が増えている。

(委員) 参加学科は、経済情報学科が多いのか。

(法人) 経済情報学科が多いが、他学科も参加している。

(委員) 福山市立大学と企業との交流が比較されるが、この情報交換の場を活かして就職に繋がっていけばよいと思う。

(委員) 第二期中期計画の6年間のうち、コロナ禍で後退した部分や進化した部分もあると思うが、継続している**ものごと**はあるか。

(法人) オンライン授業については、効果があるものは教科担当の申請により、現在も継続している。

(委員) 内容によって使い分けていくことはいいことだと思う。

国際交流について、コロナ禍により留学生が減っている。円安により訪日は増加しているが、留学先一覧ではアジア圏が多く、ヨーロッパが少ない。美術や芸術の交流ができる留学先を増やす検討をしてはどうか。

(法人) **新型コロナウイルスの5類移行後コロナ終息後**、すぐに留学希望者が戻ることはなかった。ヨーク大学も参加希望人数が定員を満たさなかったため、実際に行くことはできず、オンラインで実施した。別の提携先も考えていくことは必要と考える。

(法人) 今年度、初めてロシアから美術へ留学生がきて、新たな繋がりができたと思う。

(委員) 日本から行くのは経済的に難しい面もあると思うが、来る人があれば学生への刺激にもなる。海外からの受け入れを増やして新たな繋がりを持つことは大事だと思う

(委員) 中期計画の期間中にコロナになり、計画の中にコロナ関連の細かい記載は

あるが、コロナに対して大学がどのように対応したのか、総括的なものを行う必要がある。振り返り対応がどうだったのか、今後どのように活かしていくべきか、学生のアフターケアをどのように進めていくのか等、検討する時期がきているのではないかと。

(法人) コロナ禍では、危機管理マニュアルに従い、危機管理対策会議を立ち上げ情報収集をしてきた。まだ総括はしていないが、必要と考えている。

従来の形に戻りつつあるが、コロナ禍によりコミュニケーションがうまく取れない学生も多いと感じている。学生が学生の相談に乗るピアサポート活動が最近始まったが、今年度入学時に予想以上に参加者が集まったため、需要はあると考え、この活動が円滑にできるように大学としてサポートしていきたい。

- (3) その他について、評価書について7月24日(水)までに修正事項等を提出してもらうこととし、次回の評価委員会について案内した。